

都市木造から探る都市景観の未来像

—ティンバライズ建築展「都市木造のフロンティア」から—

今号の特集は「木材利用ルネッサンスへの戦略—公共建築物等木材利用促進法の意味するもの」として、一般建築物の木造化の可能性を探っています。現在、中規模(大規模)建築物の木造化の可能性を探る意欲的な試みは、さまざまなところでなされています。

木造の新しい可能性を模索するデザイナー・技術者集団「NPO 法人チームティンバライズ」(理事長: 腰原幹雄 東京大学生産技術研究所准教授)もその一つです。チームが主催した建築展から、木造による都市景観の未来像をのぞいてみます。この建築展は、昨年2010年5月21日~30日、青山のスパイラルガーデンで行われました。

未来景観と、そのいくつかをみてみよう!



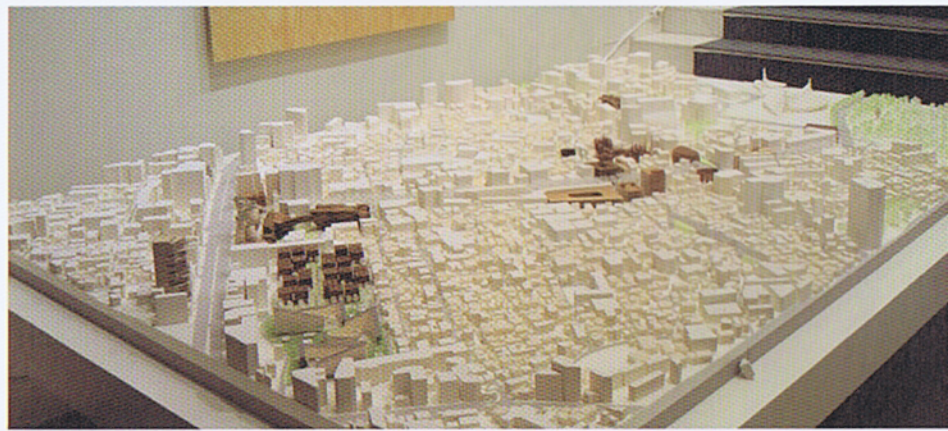
▲ 30 木の高層ビル

木造建築の魅力を最大限引き出すために、柱、梁、床スラブの主要構造部において、全て構造用の木材が、そのままの現しで見えます。そのため、木材で燃えしろ層と燃え止まり層を構成する、燃えしろ被覆型耐火部材を採用していますが、燃えしろ層も構造部材として利用しています。



▲ Solid 木塊

最新の集成材技術では、2m角の大きな木のブロックをつくることができます。これを積み上げていくと、分厚い木の壁になります。木は柔らかいので、壁を彫刻するように自由に削ったり、壁に好きな大きさ・形の穴を開けたりすることができます。



▲ 表参道プロジェクト

チームティンバライズの7つのプロジェクトは、都市木造の可能性と実現性を追及しています。さまざまなビルディングタイプ、規模を想定し、現在の技術で建てられるものから、将来建てられるであろうものまでを、設計・デザイン・構造・耐火の観点を中心に計画しています。

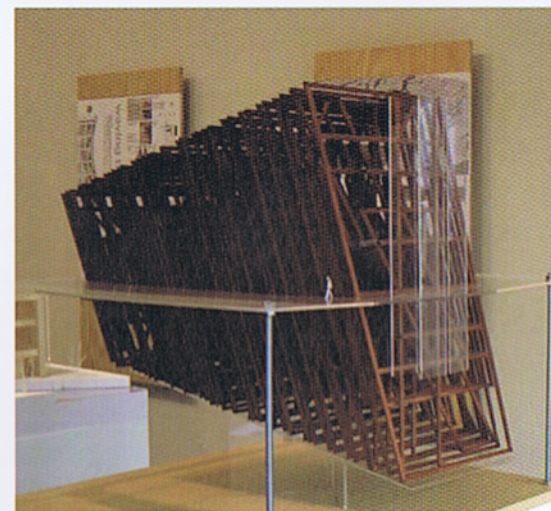
◀ Petal 花びら

繊維に沿ってやわらかく曲がった小さな部材を、少しいびつな五角形のパターンで、透かしながらたくさん重ねて「花びら(Petal)」をつくります。これは梁の役割を果たし、つなげていけば床を支える大きな面が出来上がります。「花びら」が広がり、積み重なって天井をつくるこれまでにみたことのない、不思議な空間の誕生です。



▲ 都市をまたぐ木層建築

折れ曲がりながら連続する「透かし積層壁」は、都市の隙間に自由に浸透し、既存の建築や神社等をまたぎながら、「建築」を構成してゆきます。それは構造体であると同時に、時に空間をゆるく分節し、内部に木漏れ日のような空間の質を作り出します。(大阪市立大学 宮本佳明研究室)



▲ 林のようなビル

「木のような構造」と「木のようなかたち」から導いた「林のようなビル」をキャットストリート沿いに立ち上げました。下階では高密度の柱列が、上階では低密度の柱列がフロアを支えます。(東京理科大学 宇野求研究室)



完成イメージ



完成イメージ

